

百日咳にまだまだ注意！

どれくらい発生しているの？

百日咳は特有のけいれん性の激しい咳発作が特徴的な病気です。患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる分泌物により、飛沫感染・接触感染で広がります。この百日咳が今年都内で流行しています。患者報告数は、直近で過去4年間よりも大きく上回っており、まだまだ増加傾向です。年代では保育園・学齢期が多く全体の75%を占めています。

夏休みの時期となり、塾や学童クラブ、部活動などで過ごす時間も増えることから、体調が悪い際は早めに受診し、無理をせず、自宅で静養するようにしてください。

東京都における百日咳報告数



百日咳にかからないためには？

- ・予防にはワクチンが有効です。百日咳は定期予防接種が行われています。0歳2か月に達したら、早めにワクチンを接種しましょう。
- ・また、定期予防接種により免疫を得ていても、小学校就学前にワクチンの効果が薄まるため、日本小児科学会では任意での2回の追加接種（就学前1年間、11～12歳）を推奨しています。

百日咳かもしれないと思ったら？

- ・マスクを着用してください。
- ・早めに医療機関を受診し診断を受けましょう。周囲に百日咳の方がいた場合は医師に伝えましょう。

百日咳と診断されたら？

- ・周囲へ感染を広げないために、特に咳の激しい間は外出をひかえてください。
- ・日本でも治療薬となるマクロライド系抗菌薬耐性の百日咳が増えてきているため、これまで以上に咳が出ている間はマスクの着用と手洗いを徹底してください。

